

第4回JR川越線荒川橋りょうの複線化仕様での架換えに関する協議会概要

－開催概要－

- 1 日 時 令和3年9月21日（火曜日） 16:00～16:50
- 2 場 所 WEB会議
- 3 出席者 別添のとおり
- 4 議 事 JR川越線荒川橋りょうの複線化仕様での架換えに関する調査の中間報告について
- 5 配布資料
 - ・ 次第
 - ・ 名簿
 - ・ JR川越線荒川橋りょうの複線化仕様での架換えに関する調査業務委託中間報告
 - ・ 参考資料 架け替え位置について（国土交通省資料抜粋）
 - ・ 別紙1 先進事例の調査
 - ・ 別紙2 荒川橋りょう架換えにおける技術上・工程上の課題

－議事概要－

- ・ 事務局から、JR川越線荒川橋りょうの複線化仕様での架換えに関する調査の中間報告について、配布資料により説明があった。
- ・ さいたま市から、複線化が重要であるとともに、今後は荒川第二・三調節池整備事業の進捗への影響に配慮し、国の橋りょう架換え計画を踏まえて各整備形態案の検討を進めることも重要ではないか、との意見があった。
- ・ 川越市から、複線化も荒川第二・三調節池整備事業の早期進行も重要であり、現在進んでいる荒川第二・三調節池整備事業の内容を踏まえつつ、あらゆる可能性を含め各整備形態案の検討を深めていくことが必要ではないか、との意見があった。
- ・ 国土交通省から、今後も引き続き、荒川第二・三調節池整備事業に係る設計成果の情報提供など必要な協力をしていく、との発言があった。
- ・ 県から、橋りょうの複線化については地元市の意向が何よりも重要であることから、両市の意向を踏まえて対応を検討していきたい。実現可能性のある整備形態案を今後さらに検討していく、との発言があった。

- ・ 会員間で、今後は別紙２の①から③の整備形態案を中心に検討を進めていくことが合意された。
- ・ 川越市から、別紙２の①及び②の整備形態案においては、複線化時に流水に支障を与えない橋脚の建設位置について調査は行っているのか、との質問があった。事務局から、現時点ではまだ調査を行っていないが、最終報告書の作成までに検討していきたい、との回答があった。
- ・ さいたま市から、別紙２の「経済性の課題」の欄にコスト比較の文言が出てくるが、最終報告では建設費用も算出するのか、との質問があった。事務局から、建設費用については概略設計を行った上で初めて試算できるものである。今回の調査では詳細な金額の積算までは困難であると業者から聞いているが、建設費用も重要な要素であるため、整備形態案ごとのおおまかなコスト比較ができないか検討していく、との回答があった。
- ・ 川越市から、今後最終報告に向けてさらに検討を深めていく中で、各整備形態案について、どのような項目の比較等を考えているのか、との質問があった。事務局から、整備形態案ごとのコストの比較の他、工事の難易度や流下阻害など河川への影響などについても比較できないか検討していく、との回答があった。
- ・ J R 東日本から、各検討案への技術的なアドバイス等について、引き続き可能な範囲で協力していく、との発言があった。
- ・ 今回の意見交換の内容について「架換えルートの検討にあたっては、国の検討状況も踏まえ、今後は、現在線と別の位置での架換え案について、将来の複線化が可能かさらに検討を進めていく。」、「今後の調査検討にあたり、国土交通省、J R 東日本に引き続き御協力いただく。」とまとめることを議長が提起し、全員異議なく了承された。

以上